

# 学校での多様な運動遊びの実現に向けた取り組み

## —校庭の環境整備に焦点を当てて—

高橋雄哉 (東京学芸大学)

### 1. 目的

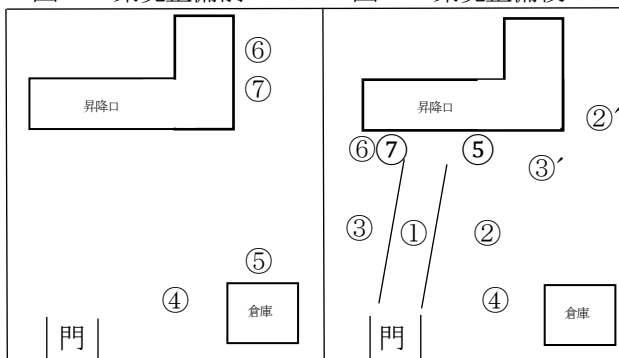
本研究の目的は、一人でも多くの子どもたちが運動遊びを行うことに対して興味を持ち、遊ぶようになったり、遊びの偏りを無くして多様な運動遊びが見られるようにしたりするために、効果的な校庭の環境整備（遊び場作り、移動遊具の導線整備）のあり方を検討することである。

### 2. 研究方法

- 1) 対象者 東京都 H 小学校の全校児童 54 名
- 2) 調査方法 令和元年 10 月中旬に児童が行っている運動遊びの様子を観察した(図 1)。そして 10 月下旬と 11 月下旬の 2 回に分けて、校庭の環境整備を行い(図 2)、環境整備後の遊び時間や種類の変化を観察した。加えて、アンケート調査を事前と事後の 2 回行った。
- 3) 分析方法 運動遊びの様子を撮影したもの、観察者が記録したもの、アンケートの 3 点を基に、環境整備前後の比較・分析を行った。

図 1 環境整備前

図 2 環境整備後



※①テンパロード ②コート ③円  
④砂場 ⑤フラフープ ⑥一輪車 ⑦竹馬

### 3. 結果と考察

- 1) 図 2 ①の遊び場では、約 9 割の児童が登下校の際に遊んだ。また、事前アンケートで「外遊びがあまり好きではない」と答え、普段はあまり遊ばない A 児も楽しく遊ぶ姿が見られたことから、普段運動遊びを積極的に行っていない児童に対しても、通り道にある遊び場は遊ぶきっかけを与えることが考えられる。
- 2) 図 2 ④では遊びがあまり展開されず、遊んでいたのは 3 年生数名である。当時 3 年生は体育で走幅跳に取り組んでいたことから、砂

場に興味を示したことが考えられる。体育の授業内容に合わせた遊び場を設定し、児童の必要感に合わせることも、運動遊びを促す有効な手立てとなることが示唆された。

- 3) 環境整備前は移動遊具を手にとって遊ぶ児童の姿は見られなかったが、環境整備後は遊ぶ姿が多く見られた。またアンケート結果より、環境整備の前後で行われた運動遊びの種目が微増した。これにより、環境整備を行うことは児童の多様な運動遊びを引き出すきっかけになるのではないかと考えられる。
- 4) 図 2 の①③⑤⑥⑦にある遊び場や移動遊具は、集団遊びを行うための人数が集まるまでに遊ばれている様子が多く見られた。このことから昇降口付近に環境整備を施すことには、短時間でも手軽に多様な運動遊びに触れることができる機会となる可能性が示唆された。
- 5) 環境整備前後では、後の方が種目毎の遊び人数が増えたものが多い。遊び場や移動遊具がきっかけで外に出て運動遊びを行っている児童間の誘い合いが起これ、次第に他の遊びへ移り変わる様子がよく見られたことから、環境整備は児童を校庭へと導き、遊びを展開させるきっかけになるのではないかと考えられる。

### 4. 結論

本研究より環境整備は、子どもたちを校庭へ導いたり、運動遊びの多様性を引き出した可能性が示唆された。しかし、昇降口から遠い遊び場(図 2 ②')は遊びが展開されにくいいため、昇降口からの導線が重要となる。加えて環境整備を行っていく上で、子どもの実態に合わせた整備でなければ遊びが展開されにくい。ただ行うのではなく子どもたちの必要感を検討し、環境整備に生かすことも合わせて重要となる。

### 5. 主な参考文献

- 1) 五十嵐由利子・三田村利 (2004) 園庭での遊具の配置が園児の遊びに与える影響, 一般社団法人日本家政学会研究発表要旨集, 56, 100-100